

10/16 千歳高校 国際理解の集い
異文化を知り、自国を知る

千歳高校国際教養科が「国際理解の集い」を開催。英語プレゼンや外国人との交流を通し、自ら考え実践する姿勢、異文化コミュニケーション能力などを育てています。

3年生は、Think Globally, Act Chitose と題し、英語のプレゼンテーションを行いました。生徒が自ら地域の課題を見つけ、千歳をよりよくするための取り組みを考案・紹介します。ハイレベルなプレゼンが続く中、「外国人に優しい千歳：やさしい英語+やさしい日本語プロジェクト」と題し、多文化共生をテーマにプレゼンを行ったグループが「地域にインパクトを与えそうな賞」と「最優秀コミュニケーション賞」の2賞を独占。その一員で、カナダでの語学研修の経験がある尾村 美裕さんは、勝因を「間違ってもいいから、英語を頭に入れて発音を意識して伝えること」と分析しました。小松 和奏さんのグループは、千歳のローカルフードの知名度が低いと感じたことから、これらを世界に発信する取り組みを提案。発表を終えて小松さんは、「国際教養科には千歳出身でない人も多くいるので、プレゼンを通じて千歳を身近に感じてもらえたら」と手ごたえを話していました。



1年生と2年生は、アンゴラ、モザンビーク出身の JICA 研修員と交流しました。生徒が数人のグループを組み、研修員を体育館に設置されたブースに案内。ブースは8つあり、習字、折り紙、福笑い、よさこい、箆使い、だるま落とし、けん玉、楽器・歌を体験できます。生徒自ら実演役となり、研修員に自国の伝統文化を紹介しました。事前の授業でポルトガル語でのあいさつや数の数え方などを学び、当日は簡単な会話でコミュニケーションを取りながら異文化理解を深めました。習字を紹介した中野 姫翠さんは、「上手に書けたときの皆さんの笑顔を見たとき、頑張って準備してよかったと思えました」と振り返りました。

人々のうごき

《総人口》
97,060人 (+20)
男性 49,387人 (+48)
女性 47,673人 (-28)
《世帯》52,818世帯 (+60)

()内は、前月との比較です。

11.1 現在

広報ちとせのおわびと訂正

広報ちとせ 10月号3ページにて、バス停「市役所前」と「仲の橋通」の位置を逆に表記していました。おわびして訂正します。

手づくりの着陸場から新千歳空港へ開港 100年の歴史を振り返る

ちとせ空港 百年物語 Vol.31 二者択一

米田忠雄の奮闘
「千歳空港を自衛隊専用空港とし、札幌周辺に新国際空港をつくる」昭和41年7月15日の政庁発言は千歳市を揺るがし、千歳市長、米田忠雄を驚愕させました。米田は千歳空港の国際空港化に向け尽力してきた一方で、「国民として国防には協力するべき」との考えの持ち主でもあり、彼のもと千歳市は、

自衛隊との共用で千歳空港の維持発展を図る方針をとり続けてきました。しかし、今まさに政府が下そうとしているのは、『共用は認めない』との決定でした。「自衛隊が民間か、二者択一の選択を市に迫るものだ。ならば、市の取るべき態度は——」同日、札幌で札幌市長を会長とする札幌経済協会の総会が開かれると、「道内の国際空港は千歳から分離し、石狩管内石狩町生振に設けるのが理想的である」との意見がまとめられ、関係省

庁に働きかけていくことが決まりました。「もはや一刻を争う」米田はすぐさま行動を開始しました。手始めに翌16日、臨時市議会を召集し、政府要望意見書の決議を得ます。趣旨は「千歳空港を民間専用の第1種空港に指定し、さらに国際空港として必要な施設の整備を図りたい」との、政府発言とは真逆のものでした。米田は要望意見書を手17日、吉田信一市議会議長、小池金吾商工会議所会頭らとともに上京。関係当局への要望運動を開始しました。

10/7 「市民の安全・安心を守る」決意新た
千歳駅前交番 開所式



昨年から進められていた駅前交番の建替工事が完了し、千歳警察署が開所式を開催しました。駅前交番は昭和27年に開設され、70年以上にわたり地域住民の安全を守り続けてきました。建物のリニューアルに伴い、恵庭駅前交番と区別するため、名称を駅前交番から「千歳駅前交番」に改め、10月1日から運用を開始しました。木造2階建ての建物で、1階に事務室、2階に休憩室やコミュニティルームを配置。警察官12人が交代で勤務するほか、相談員1人を設置しています。開所式では、田中 政宏 警部補が決意を表明。「地域住民の安全・安心の拠り所として身近な犯罪や交通事故の防止に努め、地域の期待に応えていく所存であります」と宣言しました。

10/22 千歳市空港開港まで、あと1年
先人の偉業に敬意の献花



市と千歳航空協会、千歳市空港開港100年記念事業実行委員会が空港公園で献花式を行いました。献花式は毎年、千歳に初めて飛行機が着陸した10月22日に行っています。空港開港99年となる今年は空港関係者など68名が出席し、新千歳空港の原点ともいえる着陸場を築きあげた当時の村民に敬意を表し、献花を行いました。千歳航空協会の山口 幸太郎会長は出席者を前に、後世に伝えるべき先人の教訓として「不撓不屈のあくなき挑戦をした精神力」と「事にあたって一致協力する「スピリット・オブ・チトセ」の精神」を挙げ、「来年の空港開港100年を、市民総ぐるみの意義あるものになりたい」と呼びかけました。

まちのできごと・マンスリーでお知らせします。

10/12 カラダを動かした後はモグモグタイム！
ウォーク・ラン&イート



65BASE主催のイベント「ウォーク・ラン&イート」が青葉陸上競技場で開催され、道内各地から多くの人が集まりました。参加者はランニング、親子ラン、ウォークの3グループに分かれ、それぞれの種目で体を動かしました。親子ランでは、青葉公園の森林コースに隠れた65レンジャーからシールを集めるという仕掛けがあり、親子で協力しながらゴールを目指す姿が多く見られました。体を動かした後はかもめ食堂のお弁当や岩塚製菓のお菓子など、千歳の特産品を堪能。松浦農園のやさいの詰め放題や北ガス大抽選会もあり、最後まで大盛り上がりとなりました。親子ランに参加した武隈 柚希くん(小学4年生)は「レンジャーをはやく見つけることができ良かった。頑張れば、頑張るほどいける！」と悪天候を感じさせない元気な笑顔を見せてくれました。